

# 単館SC研究会有志とテナント企業店舗開発担当者の研究会 合同で台湾市場を視察 消費者の購買意欲や商業施設の活気学ぶ

2026年02月13日更新

- この記事を保存
- ポスト
- 



現地の日系企業関係者による勉強会も行った

日本ショッピングセンター協会の組織で、単館型SCを運営するディベロッパーで構成する単館SC研究会有志とSCに出店するテナント企業の店舗開発担当者が集まるPRC情報研究会（事務局＝ブレンアンドパートナー）は2月4～7日、台湾の商業施設視察会を実施した。

計25人が参加、台北市のららぽーと台北南港や、大型商業施設が集積する信義エリア、台湾の有力商業施設「誠品生活」の台湾最大店舗である新店などや台中市のららぽーと台中、新光三越百貨の1号店である台中店などを視察した。

現地の日系企業などとの交流会も行った。新光三越百貨の岸純一郎経理やアーバンリサーチ台湾の菱川直哉総経理が台湾事業と台湾のマーケット状況について講演し、JR東日本台湾事業開発と、アトレの現

地法人であるJR東日本台湾商業開発が概要と今後の方針を説明した。

両研究会は23年から年1回合同研修会を行っており、海外での視察会はこれが初めて。PRC情報研究会を主催するブレンアンドパートナーが18年に台湾法人を設立し、現地の商業施設事情に精通していることから、同社の和田剛代表がコーディネートし、台湾で実施することにした。

「現地の消費者の購買意欲の強さや商業施設の活気に刺激を受けた」という参加者が多かった。台湾進出を検討している企業の担当者も参加、「課題は多いが、ビジネスチャンスはあると感じた」と話した。



[台北、台中の有力施設を視察した（ららぽーと台中の前）](#)

[この記事の紙面を見る](#)

織研電子版公式アプリをダウンロード

織研電子版が読める公式アプリです。サクサク動き、横スクロールで面移動もスムーズ！ウェブブラウザ版よりも見やすく、快適にご利用いただけます。是非この機会にご活用ください。

